



よいことの
ために
手を取りあおう

会報

WEEKLY REPORT

2025-26 R.I.会長

フランチェスコ・アレツツォ
第2500地区第6分区帯広北ロータリークラブ

会長／荒木 樹

副会長／一宮 綾子

幹事／齊藤 政樹

[四つのテスト] 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

第3183回 例会報告

2025.11.14

●例会日／金曜日〈12:30～13:30〉
●例会場／ホテル日航ノースランド帯広
●事務局／帯広市西3条南9丁目23 帯広経済センタービル東館3F
TEL 0155-25-7347

■点 鐘

荒木 樹 会 長

■開会宣言

伊藤 孝志 副SAA

■ロータリーソング（奉仕の理想）

■ゲスト紹介

米山記念奨学生

フランシスコ エルトン アマデウス 様

帯広市 都市環境部 都市建築室 都市政策課

主幹 朝野 哲夫 様

課長補佐 中島 康次 様

■会 食

■会長挨拶

荒木 樹 会長



2025年も残り47日となり、本年の88

%が経過しました。年末に向けて慌ただしさが増す時期ですが、会長からは「まずは体調管理を最優先に」という呼びかけがありました。気温差の大きい季節であるため、無理のない健康管理が求められることが強調されました。

▼ 寄付制度について

ロータリー財団に関する二つの寄付制度が紹介され、理解の促進と参加の呼びかけが行われました。

・ポール・ハリス・ソサエティ（PHS）

年次寄付・ポリオプラス・人道的補助金プロジェクトを対象に、年間1,000ドル以上の寄付意思を表明する制度。

・ポリオプラス・ソサエティ（PPS）

ポリオ根絶を目的とした「ポリオプラス基金」に特化し、毎年100ドル以上を寄付する制度。

一方で、法人による寄付割合は全国23位と健闘

しており、企業単位での支援意識が徐々に広がっていることも紹介されました。

これらは互いに独立した制度であり、寄付できない年があっても資格が剥奪されることはありません。

そのため「気軽に参加してほしい」と案内があり、例としてが両制度に加入申込を行ったことも紹介されました。

▼ 寄付の現状と課題

・荒木会員がPHF（ポール・ハリス・フェロー）+5を受章されたことが報告され、クラブ内から拍手が送られました。

・一方で、現在の年会費に含まれる財団寄付（年間5,000円）だけでは、円安の影響もありPHF達成までに30年以上かかる現状が指摘されました。

・そのため、PHFを目指すには 年会費とは別の個人寄付が不可欠であり、便利なクレジットカード寄付の登録サポートもクラブとして行っていくとの説明がありました。

▼ ロータリー奨学会

近年、奨学生募集の応募が全国的に低調であることが問題として挙げられました。認知度が低いため、「会員一人ひとりが口コミやSNSで積極的に広報を」と協力が求められました。

▼ 台湾国際大会

来年6月に台湾で開催される国際大会について、参加登録料の割引期限が12月15日に迫っているため、早めの申し込みが推奨されました。



■会務報告

斎藤 政樹 幹事



▼ 例会・総会スケジュール

・11月28日（金）帯広北RC例会は休会

・12月5日（金）例会時に年次総会を開催

▼ これからの主な予定

・11月25日（火）19時～

帯広ローターアクトクラブ主催「カーリング体験例会」

会場：カーリングホール 参加料：5,000円

・12月12日（木）

年末家族懇親会（ホテル日航ノースランド帯広）

・11月30日（日）

国際親善市民の集い（ワインパーティー）

→ チケット2枚の余りがあり、希望者を募集

■ニコニコボックスの発表

一宮 綾子 副会長



石岡 幸雄 会員

関口 亘 会員

山本 敦 会員

柴田 隆視 会員

田中 正一 会員

長谷川道正 会員

■プログラム

プログラム委員会

帯広市 都市環境部 都市建築室 都市政策課



主幹 朝野 哲夫 様

課長補佐 中島 康次 様

テーマ：「帯広市立地適正配置について」

この日の例会では、帯広市が取り組む「立地適正化計画」についての説明も行われました。

▼ 計画の背景と目的

- ・人口減少と高齢化の進行により、持続可能な都市経営が重要課題となっている。
- ・そのため、医療・福祉・商業などの都市機能を中心部や生活拠点に集め、周辺に居住を誘導する「コンパクト・プラス・ネットワーク」

ク」の考え方に基づいた都市づくりを進める。

▼ コンパクト・プラス・ネットワークとは

- ・中心市街地への一極集中ではなく、複数の生活拠点を結ぶ多極的な都市構造を目指す。
- ・住民に移住を強制するものではなく、時間をかけて緩やかに誘導していく中長期的な政策であることが説明された。

▼ 期待される効果

- ・人口密度の適正化による サービス産業の生産性向上
- ・行政コストの縮減
- ・歩行機会の増加による 生活習慣病予防やCO₂削減

▼ 帯広市の現状と将来推計

- ・人口は2000年の約17万人をピークに減少。
- ・2050年には約13万人、高齢化率40%に。
- ・市の独自推計では 40年後に人口10万人を下回る可能性も示されている。

▼ 今後の計画と展望

- ・計画期間は約20年。
- ・「居住誘導区域」「都市機能誘導区域」を設定し、区域外での特定開発には届出が必要となる。（ただし建築の直接的な禁止や制限ではない）
- ・他都市の事例として釧路市（王子製紙跡地など）の取り組みも参考にしつつ、帯広に合った誘導施設を検討していく。
- ・令和8年度末の策定を目指し、関係団体へのヒアリングやパブリックコメントを実施予定。
- ・計画は時代の変化に応じて見直ししながら進めていく方針が示された。

■次週のプログラム予定

「ゲスト卓話又は会員卓話」

■閉会宣言

伊藤 孝志 副SAA

■点鐘

荒木 樹 会長

例会案内

〈月曜日〉広尾RC：日高信金広尾支店

帯広南RC：北海道ホテル

〈火曜日〉芽室RC：めむろーどセミナー

帯広東RC：ホテル日航ノースランド

〈水曜日〉帯広RC：ホテル日航ノースランド

上士幌RC：川村福祉会館

音更RC：ハビオ木野

〈木曜日〉足寄RC：足寄銀河ホール21

清水RC：清水町中央公民館

帯広西RC：北海道ホテル

■出席報告／渡辺 紘生 出席委員長

会員数	計算に用いる 会 員 数	ホームクラブ 出 席 数	メイクアップ	欠 席	出席率
58					48.21%